

研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-245
研究課題名	パーキンソン病およびパーキンソン症候群におけるヒト脳脊髄液中糖たんぱく質解析研究
研究期間	西暦 2013 年 9 月（倫理委員会承認後）～2015 年 3 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（髄液）
上記材料の採取期間	西暦 2006 年 1 月～2012 年 12 月
意義、目的	<p>特発性正常圧水頭症は認知症、歩行障害、尿失禁など呈する疾患で成人高齢者に多い。特発性正常圧水頭症で見られる認知症は全認知症患者の約 3.5%（10 万人）を占めるといわれており、他の認知症と異なり腹腔シャント術などにより劇的に改善する。診断および手術適応については、一時的に脳脊髄液を抜き歩行障害などが改善するかどうかをみるタップテストと呼ばれる方法で行われている。しかしながら、タップテストで症状の改善がみられず特発性正常圧水頭症と確定できなかった症例においても、腹腔シャント術によって症状が改善することが報告されている。このように、タップテストによる特発性正常圧水頭症の診断および手術適応の評価には限界がある。そのため、新しい診断マーカーによる確定診断法が強く望まれている。近年、特発性正常圧水頭症患者の脳脊髄液中にはある種類の糖タンパク質が存在することが明らかになり、この物質が診断マーカーとして応用できる可能性がでてきた。診断マーカーとしての実用性のために、この糖タンパク質が他の中枢神経系疾患で見られないことを証明する必要がある。そこで、中枢神経系の代表的疾患であるパーキンソン病およびパーキンソン症候群に着目し、この糖タンパク質を測定することによって特発性正常圧水頭症の診断マーカーとしての疾患特異性を評価・検討する。</p>
方法	<p>過去に採取されたパーキンソン病およびパーキンソン症候群の髄液を対象とする。この髄液検体の連結可能匿名化を行い、福島県立医科大学医学部生化学講座に送付する。本研究の解析は福島医科大学医学部生化学教室で行われ、本学では本研究の対照疾患である髄液検体を福島県立医科大学医学部生化学講座に送るのみである。</p>
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学医学部神経内科 菊池昭夫（TEL: 022-717-7189、FAX: 022-717-7192）